小瀧武夫さんのこと

岩田 聡

小瀧武夫さんは，林産試験場の前身である「林業指導所」の初代所長です。小瀧さんは，戦後初の選挙で選ばれた田中敏文北海道知事が道政を進めるため，霞ヶ関から道庁の林務部長として招かれてやってきました。

林業指導所の創設は1950年，昭和25年のことです。当時は，林政統一という変革の時代で，森林関係の研究機関は農林水産省に統合するという組織改革がありました。GHQも木材の研究は東京一ヵ所でよいという考えで，今の森林総合研究所の前身である目黒の林業試験場で木材の研究を行うことになります。それでも道庁は独自の研究機関が必要ということで林業指導所を設立しました。もし東京だけで木材の研究をしていたら，スギ，ヒノキについての研究は進んでも，カラマツ，トドマツ，エゾマツの研究は隅に追いやられていたかもしれません。

林業指導所設立にあたっては，道議会議員の先生に「木材業者が血と汗と涙で培ったものに，机を前にした役人に何が指導できる」などと言われながら，小瀧さんは新しい技術の開発と人材を育成する必要性を説明して，林業指導所設立の発起人である小林庸秀さん（この方も後の林務部長）と一緒に折衝にあたりました。

小瀧さんが「林業指導所」と命名したのは，これまでの国の研究機関と異なる「育成林業から木材搬出，木材工業まで一貫した研究」で，実際に役立つ技術者を養成し，実際に役立つ研究をする機関としたかったからだそうです。

指導所の設置場所は，もともと試験場があった札幌（豊平），江別（野幌）が候補地として挙がりました。しかし，当時の旭川の前野与三吉市長が熱心に誘致され，結果として旭川に置くことになりました。実現はしませんでしたが，林業の人材育成も視野に入っていたので，実習する森林を当麻町に確保する動きもありました。

当麻町の実習候補地となった森林は，推測ですが，択伐による持続的な森林経営を目指す「照査法試験林」に設定した道有林ではないかと思われます。その森は残念ながら1954年の洞爺丸台風で風倒被害にあい，当麻町での試験はあきらめ，翌年の1955年に置戸町の道有林に再設定します。置戸町の照査法試験林は現在も続いており，森林の成長量を測定し，成長量分を伐採する森林施業を行っています。試験林の設定には，京都大学森林経理学講座の岡崎文彬教授の指導をいただきました。岡崎教授は，スイスのビヨレイが提唱した照査法を日本に紹介した先生です。岡崎教授と小瀧さんは，京都大学に同じ時期に在学していたようで，北海道の天然林において照査法を試験導入することになったのは，岡崎教授が照査法を小瀧さんに紹介し，北海道で照査法を実施しましょうと小瀧さんが言われたのではないかと思うのです。

最近，「林業経済」誌において林業経済研究所の小瀧奨励金というものを目にしました。この奨励金は，林業経済研究発展の基礎となる若手研究者の育成を目的として，小瀧さんの賛助申し出をきっかけに始まったとあります。1989年に小瀧さんがお亡くなりになった際も，ご遺族から遺志による寄附がさらにあったようです。

小瀧さんは常に人を育てることを考えていたと思います。それは戦後の復興を見てきたからかもしれません。現在，林産試験場の隣には林業の担い手を育成する北の森づくり専門学院があります。林産試験場の隣に人材育成機関がつくられたのも何かの縁を感じます。林産試験場が旭川にあって，北海道の育成林業による代表的森林資源であるカラマツやトドマツを研究し，建築物に利用するまでになったこと，その隣には奇しくも北海道の林業を担う人材育成の学校ができたことを小瀧さんに伝えたいです。

（小瀧さんのお名前は，北海道山林史などでは「滝」の字ですが，奨励金の名称により「瀧」を使いました。）

■参考文献

・北海道山林史，北海道（1953）
・林1956年6月号，北海道造林振興協会（1956）
・林産試験場の二十年，北海道立林産試験場（1970）
・林業経済1989年11月，林業経済研究所（1989）

（前林産試験場長）